

教育厚生委員会視察研修報告書

15 番 永岡 康司

10月17日 訪問先 兵庫県洲本市【ウェルネス五色】
テーマ 再生可能エネルギー施設の整備について

洲本市五色町は明治22年に都市村・鮎原村・鳥飼村・境村・広石村の5村が合併し、五色村が誕生した。五色町の名前の由来は5地域が一体となって自治の向上発展を目指し、住民の福祉増進を祈願する象徴として、また、字句が簡単で明瞭で文化的印象を与えるとして選ばれて名付けられた様です。

最近の山林は竹林が多く発生し、環境の変化における多くの問題となっています。この無尽蔵な竹林を活用するための方策を考え、竹チップ再エネルギー化を考え、国・県等の支援をもとに、国から45百万円・県から5百万・市から4百万円の事業費で、ウェルネスパーク五色を開設。市民の健康と福祉をコンセプトとしての入浴とレストランを開設しました。入浴場のエネルギー源として、竹チップを活用することとした。竹林の竹を2から4m位に伐採しこれを乾燥させてチップ化して、市販の軽油を5%加えて燃焼させお湯を沸かして給湯することにより市民に入浴を楽しんでもらう。

この事業は、年間約144tの竹を乾燥させ10円/kgで工場に売却し、工場はチップにして30円/kgで売却して燃料としている、これにより環境整備と企業の社会貢献に役立っている。

竹チップの再生エネルギー化は、持続可能なエネルギー供給の一環として重要であり、竹の資源を効果的に活用する方法の一つであって、竹は促成植物であって、適切に管理される限り持続可能なバイオマスリソースとして役立っている事が求められている。

最後に、洲本市では環境の変化や災害のリスクに強い、エネルギーの持続する地域を築くため、太陽光発電・風力発電・菜の花の食用油と廃油のバイオディーゼル燃料の精製など、地域の自然や産業に根ざした環境との共生を目指すまちづくりを進めて、国から「エネルギーパーク洲本」として次世代エネルギーパークの指定を受けている。

10月18日 訪問先 兵庫県神河町 「Resort によん神河」
テーマ 廃校になった跡地利用

校舎の再活用について、学校用（教室）に作られた施設を福祉施設として利用することは、どうぜん改築・改装が必要となりますが、公的支援は一切なく独自で行っており教室を個室にすることは多額の資金が必要となり、また各部屋には入浴施設やキッチンが付きオール電化で安心して利用できる。また、各部屋のトイレやキッチンの排水設備には大変苦勞されたようです。

特徴は、1か月のショートステイから長期の入居など個人の都合に合わせた、入居期間の調整が可能で、永く住まえる家としても活用でき、看護・医療機関との連携充実が図られている。

当施設は、単身高齢者・高齢者＋同居者（配偶者/60才以上の親族/要介護・要支援認定を受けている60才未満の親族）の入居が可能となっている。

私見ですが、ショートステイ（2から3か月）多少の資金の出費ならできると思うが長期になると月々10万円から17万円くらいだと資金的にはきついかなどと思います、また配偶者にあっては多少の蓄財が無ければ利用は無理かと思えます。

10月18日 兵庫県加西市 加西市役所
テーマ ただのまち加西の無料子育て応援について

加西市の紹介

昭和42年4月に3町（北条町・加西町・泉町）が合併「加西市」が誕生

昭和61年：人口が53,000人が令和5年9月末で41,986人に減少

加西市の特徴

- ・内閣府の「SDGs 未来都市」に選定
- ・環境省の「脱炭素選考地域」に選定
- ・気球の飛ぶまち加西条例
- ・「ものづくり」のまち（市内総生産の52,2%が製造業）
三洋電機発祥の地でもあり全国的に有名な電化製品が製造されている
- ・ふるさと納税全国13位（令和4年度 63億61百万円）

加西市の総人口の維持

出生者数は197人0,47%（昨年174人） 伊豆市76人 0,26%

合計特殊出生率 加西市 1,11人

国 1,26人

兵庫県 1,31人 加西市は特に出生率は低いと思う

ライフステージ

結婚（結婚機会の増加、新婚世帯の経済的支援）



妊娠・出産（妊娠や出産にかかる費用、産前・産後サポート支援）



子育て（幼児教育・保育にかかる費用負担の軽減）

妊娠・出産支援（特に伊豆市にない項目）

ごみ袋の無料配布（3歳児の乳幼児のいる世帯450袋年150枚）

市内バスの無料化（子育て世代を中心に市内のバス代を無料化）

こそだて支援（子育て応援5つの無料化）

1. 保育料・認定こども園の0才から5才児の保育料の無料化
2. 全保育・学校施設のすべての給食費の無料化

3. 乳幼児～高校3年生までの医療費の無料化
4. 乳幼児を養育する世帯（生後3か月から満1歳までにオムツの無料化
5. 看護できない場合の一時預かり・病児病後児保育の無料化

以上の5項目の無料化の源資は、ふるさと納税の一部を財源として充てるとしている

以上の5項目は、伊豆市としてもかぶるところもありますが、特に気になることは【子育て応援5つの無料化】プロモーション戦略のあり方にあると思います。

- 市内向け
 - ・チラシ6,000部・パンフレット3,000部を作成、姫路市や加古川市のハウジングセンター等でも配布・・・認知の拡大
 - ・子育て応援5つの無料化サッシの配布（WEB広告・pdfパンフレットの作成
- 市街向け
 - ・WEB広告を配信し、制作した特設hpへのアクセスを誘導
 - ・WEB広告の強味
 - 配信エリアの設定・配信ターゲットの限定・配信結果の数値化

 - ・WEB広告の配信内容 20代から30代
 - ・配信エリア：兵庫県・大阪府

結果

広告表示回数 6,838,165回

特設hpの閲覧数 39,667回

感想

特に数値的には変わったことは無いと思います、出生数は197人人口比率0.47%出生率1.11人と特段高くはないし、低いと思います。

SNSを使った広告の在り方が特に興味しました、伊豆市でも最近広報活動を行っていますが、加西市よりもきめ細かい活動内容を、広告媒体を使った方法で伊豆市を知ってほしいと思います。

10月19日 兵庫県姫路市 姫路市立美術館
テーマ 近代フランス絵画の視察鑑賞

姫路市立美術館の建物は、1905年に陸軍倉庫として建てられた物で、姫路公園内にあるレンガ造りの美術館で、1983年に開館し、近現代美術を中心に、国内外の美術品を収蔵・展示しています。コレクションは、近代フランス絵画、現代美術など幅広い分野の作品で構成されています。

姫路市立美術館の入館者数は、年間 1,548 千人もの来訪者を迎える姫路城に隣接しているにも関わらず、例年 80～100 千人程度で維持されているようです。原因としては、姫路城への来訪者と美術館の来訪ニーズが異なることから積極的に美術館へと誘導する取り組みを行ってこなかったのが一因であり、今後、姫路市の文化遺産の魅力を十分認知される様広報活動に努めなければならない。伊豆市においても、新たに新館を建設して、空調設備をしっかりとしながらの、美術館建設は疑問を感じていますが、その維持に対する経費も相当と考えます、今後、この問題は多くの議論が必要と考えます。